

子ども部会 協議内容について(第1回目)

外遊びの推進

①親子で一緒に遊べる機会・場づくり

- ・親子と一緒に遊びたくなる仕掛け
- ・保護者と子が一緒に遊べる、スポーツできる企画が必要
- ・保護者の啓発
- ・一緒に遊ぶ、身体を動かす

②幼児期～小学校低学年の基本的運動の習得

- ・プレゴールデンエイジ期におけるコーディネーション運動（特にリズム感）
- ・専門家の配置
- ・体育授業などとのつながり？
- ・学校での外遊び
- ・休日、放課後の外遊び
- ・子ども同士、家族

③安心して遊べる場の確保

- ・地域の大人ボランティアによる遊びの拡充（元 アンビシャス）
- ・公民館は場として有効
- ・校区公民館の開放⇒遊び場、体験活動

学校体育・運動部活動の充実

①学校体育の充実

- ・ベースは歩いて登校
- ・小学生男児、中学生女子のスポーツ運動していない子へのアプローチ
- ・1校1取組継続
- ・学校における一貫した取組（青小100kmキャラバンなど）
- ・小学校低学年の基本的な動きの習得
- ・体育の授業改善（新要領に基づいて）

②部活動の充実

- ・中学校の部活動
- ・競技だけでなく同好会の設置
- ・学校部活動と社会体育の連携
- ・モデル事業
- ・部活動 外部コーチ、場所の整備、グラウンド備品、地域との共同
- ・部活動、スポーツクラブ
- ・子どもによる形成的評価⇒指導運営改善へ
- ・運動部活動改革
- ・健康づくり、楽しみ志向
- ・全体（合同）練習日
- ・各種スポーツの専門家だけでなく、身体のケアができる外部指導者
- ・学校部活動の充実は指導者（外部指導者含む）の意識改革から

多様な体験活動の充実

①市独自の取組による体験活動の充実

- ・古賀市体操みたいな全員でやる運動（家トレのような）
- ・運動スポーツの参加しやすい仕組み
- ・スポーツの日など市独自に設定
- ・各地域で様々な競技を行う
- ・子どもを参加させながら保護者もリフレッシュ
- ・興味を持つ機会 内容と回数
- ・目標の設定
- ・こがっ子元気アップチャレンジ
- ・地域主体の活動への展開

②体験活動への課題解決

- ・体験不足、遊び不足、ルールが守れない⇒解決できるのか
- ・成長しても機会の提供を切れ目なく
- ・幼保⇒小学校⇒中学校

ジュニアスポーツ団体への支援

①ジュニアスポーツ団体支援

- ・単一種目、練習のやりすぎ
- ・ジュニアスポーツ指導者の育成
- ・体罰によらない、危機管理・安全面に配慮した
- ・ジュニア団体の交流
- ・ジュニアバスケ、野球などが始まる前に一般の子が参加できる時間をつくる

②活動場所の整備

- ・活動場所の整備
- ・グラウンド、備品、育成プログラム、駐車場、
- ・安全に活動する為に。